歯学部長　前　田　健　康

第３期中期目標期間４年目終了時評価（国立大学法人評価）について

国立大学法人は国立大学法人法に基づき、中期目標期間の業務の実績について、文部科学省の国立大学法人評価委員会の評価を受けることとなっています。この度、国立大学法人の第３期中期目標期間（平成28年度から令和３年度）における業務の実績について、令和元年度末の４年目終了時に教育研究の状況について評価を受けました。歯学部は教育活動の状況で「特筆すべき高い質にある」の評価を受け、この最も高い評価は全国国立大学歯学部では本学歯学部が唯一でした。（https://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/kokudai2020/3_2020_34_niigata_2.pdf）

令和３年度Student dentist認定書授与式および臨床実習登院式の実施について

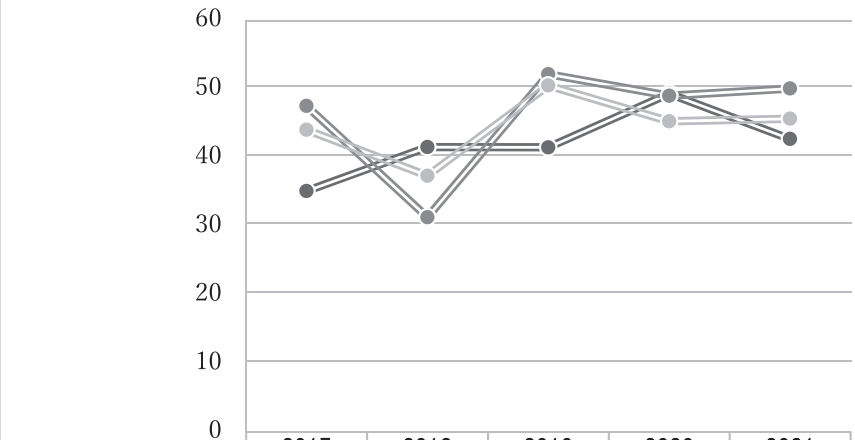
令和３年10月12日（火）に、Student Dentist認定証授与式及び臨床実習登院式を行いました。Student Dentist認定制度は、共用試験（CBT・OSCE）の結果を基に、全国歯科大学学長・歯学部長会議およびスチューデント・デンティスト認定運営協議会が診療参加型臨床実習に必要な知識、技能、態度を有した学生をStudent Dentistとして認定するものです。

今年度は歯学科５年次の学生45名がStudent Dentistに認定されました。また授与式に引き続いて臨床実習登院式が行われました。

第３期中期目標期間の科学研究費助成事業の採択結果について

令和４年３月31日で第３期中期目標期間が終わります。本部研究推進部URAから歯学部の科学研究に関するデータをいただきましたので、紹介します。データは過去５年間のもので（2017年度分は集計方式が異なるので、データなし）、新規採択率の2017年度から2021年度の経年変化は図１に示すように、2019年度に最高値50.43%となり、2021年度は45.6%でした。新規採択件数は平均54.6件（2021年度57件）で、継続分も含めると平均141.8件（2021年度新規57件、継続88件）でした。

表１に中区分別採択件数上位10機関（https://www.mext.go.jp/content/20210107_mxt_gakjokik_000019825.pdf）（区分：口腔科学およびその関連分野）を示します。新区分になってからの口腔科学およびその関連分野での新規採択件数は174件（全国５位）ですが、新規採択率は45.2%（昨年度44.7%）で、全国２位でした。また配分総額は２億4300万円（全国５位）で、１課題あたりの採択金額は190万円（昨年度186万9200円）で全国４位でした。基盤的経費の増加が見込めない中、科学研究費の重要性は高まる一方ですが、教員数の削減に伴い、歯学部（病院所属を含む）採択金額（新規＋継続）は2017年度の２億2930万円から、2021年度では１億4370万円に低下し、１人あたりの採択金額（新規＋継続）も約241万から2021年度では約167万に低下しています。１件あたりの採択金額の増加、すなわち大型の科学研究費の申請・採択が必要となっています。そのためには、学際的観点から先端的手法を用いた質の高い研究論文の輩出が必要と考えられます。



	2017	2018	2019	2020	2021
歯学部	35.06	41.46	41.43	49.25	42.65
病院（歯）	47.46	31.25	52.08	48.94	50
歯系	43.97	37.29	50.43	45.22	45.6

図１　新規採択率の経年変化（2017～2021年度）

表１　中区分別採択件数上位10機関（口腔科学及びその関連分野）

順位	機関名	新規採択件数	配分額（直接千円）	応募件数累計数	採択率（%）	1課題あたり採択金額
1	大阪	240	539,800	509	47.2	2,249.2
2	医科歯科	238	404,900	896	26.6	1,701.2
3	東北	202	374,200	471	42.9	1,852.4
4	岡山	183	334,600	439	41.7	1,828.4
5	新潟	174	330,600	385	45.2 ②	1,900.0 ④
6	広島	170	269,000	413	41.2	1,582.4
7	九州	168	339,600	398	42.2	2,021.4
8	日本	134	162,700	632	21.2	1,214.2
8	長崎	131	255,000	327	40.1	1,946.6
10	昭和	130	197,200	503	25.8	1,516.9

第４期を見据えた前倒し事業の採択について

第４期中期目標期間を円滑に始動させるために、本学では第４期を見据えた前倒し事業を公募していましたが、この度、歯学部が提案していた「アライアンスラボ整備による若手研究者育成事業」が採択されました。

歯学部ではElsevier社のデータベースScopusを用いて研究実績の見える化を図り、トップ10%および25％ジャーナル論文比率はそれぞれ21.9%、56.5%であるものの、トップ10%、25%論文比率は7.8%，27.1%であり、このことは発表論文の質をさらに向上させる必要があります。また歯学部はこれまでの概算要求事業としてアライアンスラボを整備し、若手研究者の育成を行っています。そこで本事業では最新鋭の高度な研究機器をアライアンスラボ等に設置し、共有化を図るとともに、教育研究分野の壁を越え、若手が自由闊達に研究できる環境を整備し、質の高い論文を輩出し、トップ10ジャーナル論文数の増加を目指すものです。本事業では、令和３年度中に、シングルセル解析装置、動物用蛍光ライブイメージング装置などの機器が整備される予定となっています。